

野菜の需給・価格動向レポート(平成27年12月21日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種類	11月の価格情報				12月の価格情報		入荷量及び主要産地	生育及び価格の12月の見通し	「図の見方」 現時点の価格水準 平均価格 今後の価格水準
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価額		(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	上旬	平均価格			
		中旬	下旬						
キャベツ	72.93	76	54	72.93	57	・入荷量：12,961t ・主産地：愛知(42)、千葉(36)		・愛知産は、これまでは適度な降雨と気温高により、前進出荷で平年よりやや多めの出荷となっているが、今後は落ち着いた出荷となり、平年並みの出荷の見込み。千葉産は、これまで前進傾向での出荷となっているが、前進出荷の影響に加え、降雨と気温高による品質の低下が懸念されるため、今後は平年並みの出荷の見込み。 ・愛知産及び千葉産の出荷がやや多めから平年並みと見込まれることから、価格は平年に近づき、現在は平年を大幅に下回っていることから、引き続き平年を下回って推移する見込み。	
	76.91	72	53	76.91	59	・入荷量：3,840t ・主産地：愛知(47)、兵庫(10)、茨城(7)、大阪(7)			
たまねぎ	76.15	65	63	76.15	59	・入荷量：10,254t ・主産地：北海道(94)		・北海道産は、生育期の天候に恵まれ作柄も良好で、平年よりやや多めの出荷と見込まれることから、価格は引き続き平年を下回って推移する見込み。	
	76.15	67	65	76.15	65	・入荷量：3,672t ・主産地：北海道(74)、兵庫(25)			
ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	240.04	227	230	240.04	255	・入荷量：6,760t ・主産地：千葉(25)、茨城(20)、埼玉(18)、群馬(13)、栃木(8)、秋田(2)		・千葉産は、10月～11月にかけての適度な降雨と気温高により細物傾向から回復し、生育は順調であるため、平年並みの出荷の見込み。茨城産は、最近の気温高により、生育の遅れは回復傾向であるものの、他作物の収穫作業を優先していることもあり、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。埼玉産は、天候不順の影響で細物傾向に加え、他作物の収穫作業を優先していることもあり、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・千葉産、茨城産及び埼玉産の出荷が平年並み若しくは平年より少ないと見込まれることから、現在平年並みの価格は、平年を上回って推移する見込み。	
	467.01	400	349	467.01	418	・入荷量：1,320t ・主産地：徳島(23)、三重(16)、奈良(16)、高知(13)、香川(11)、大阪(7)			
はくさい	40.32	44	34	40.32	31	・入荷量：14,553t ・主産地：茨城(93)		・茨城産は、気温高の影響で、12月中旬出荷予定のものが、11月末前後に出荷されていたが、今後はこの前進出荷の影響に加え、年明けの霜対策の作業が重なることから、出荷の谷間となり、平年よりやや少なめと見込まれることから、価格は平年に近づき、現在は平年を大幅に下回っていることから、引き続き平年を下回って推移する見込み。	
	55.95	51	48	55.95	48	・入荷量：5,374t ・主産地：茨城(29)、和歌山(15)、愛知(10)、岡山(10)、熊本(9)、大分(8)、兵庫(7)			
ほうれんそう	385.11	279	276	385.11	429	・入荷量：1,629t ・主産地：群馬(36)、茨城(18)、千葉(17)、埼玉(17)		・群馬産は、これまでの前進出荷の影響で、今後も平年よりやや少なめの出荷の見込み。茨城産は、最近の適度な降雨と気温高により、生育は順調で引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。千葉産は、適度な降雨と気温高により生育は順調で前進出荷傾向となっており、現在平年よりやや多めの出荷となっているが、今後は落ち着いた出荷となり、平年並みの見込み。 ・茨城産及び千葉産の出荷が平年よりやや多め若しくは平年並みと見込まれるもの、群馬産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	461.74	301	321	461.74	508	・入荷量：587t ・主産地：徳島(39)、福岡(30)、岐阜(12)、群馬(11)			
レタス (結球)	143.63	79	106	233.85	158	・入荷量：7,396t ・主産地：静岡(26)、兵庫(15)、長崎(13)、茨城(12)、香川(9)、熊本(4)		・静岡産は、最近の降雨と気温高により大玉傾向となっていることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。兵庫産は、降雨後の気温高によりイタミが発生し、下位等級の発生が多いものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。長崎産は、最近の気温高により前進出荷となっていたが、今後は気温高の影響で下位等級品など出荷できないものもあることから、平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・静岡産の出荷はやや多めと見込まれるもの、兵庫産及び長崎産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。	
	154.61	91	120	226.75	161	・入荷量：1,479t ・主産地：兵庫(45)、徳島(21)、長崎(13)、香川(6)			
きゅうり	262.75 370.98	249	375	370.98	510	・入荷量：4,491t ・主産地：宮崎(37)、千葉(20)、高知(19)、埼玉(11)		・宮崎産及び高知産は、最近の天候に恵まれ、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、11月の天候不順の影響で生育はやや不良で、現在は平年よりやや少なめの出荷となっているが、生育が回復基調となっていることもあり、今後は平年並みの出荷の見込み。 ・宮崎産、高知産及び千葉産の出荷が平年並みに回復すると見込まれることから、平年を上回っていた価格は、12月上旬半ばから値を下げており、平年並みに推移する見込み。	
	284.72 350.33	226	355	350.33	492	・入荷量：963t ・主産地：宮崎(48)、高知(26)、徳島(13)			
トマト (大玉)	315.83 349.23	246	223	349.23	254	・入荷量：4,745t ・主産地：熊本(45)、愛知(18)、栃木(11)、千葉(10)		・熊本産及び愛知産は、天候に恵まれ着果状態が良く、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産は、生育期に好天に恵まれたことから、大玉傾向となっており現在平年よりやや多めの出荷となっているが、今後は平年並みの出荷の見込み。千葉産は、11月の曇天の影響で花落ちが散見され、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・熊本産、愛知産及び栃木産の出荷が平年並み、千葉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、価格は平年に近づき、現在は平年を大幅に下回っていることから、引き続き平年を下回って推移する見込み。	
	337.88 326.61	246	228	326.61	249	・入荷量：963t ・主産地：熊本(70)、愛知(9)			
なす	301.00 389.03	313	330	389.03	421	・入荷量：1,672t ・主産地：高知(62)、福岡(17)		・高知産及び福岡産は、11月の曇天による日照不足や夜温が高い影響で花落ちが見られたことから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・高知産及び福岡産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	263.21 397.74	308	344	397.74	428	・入荷量：321t ・主産地：高知(43)、熊本(28)、福岡(17)、岡山(9)			
ピーマン	378.83	252	252	378.83	372	・入荷量：1,844t ・主産地：宮崎(37)、茨城(27)、高知(19)、鹿児島(16)		・宮崎産は、11月の曇天による日照不足の影響から花落ちが見られたことから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。茨城産は、成り疲れによる着果不良など、生育はやや不良の状況で、現在平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は着果が順調であることから、出荷は回復し、平年並みの出荷の見込み。 ・茨城産の出荷が平年並みと見込まれるもの、宮崎産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、12月上旬から日を追うごとに値を上げ、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	371.29	214	239	371.29	371	・入荷量：395t ・主産地：宮崎(52)、高知(22)、鹿児島(10)			
だいこん	67.55	49	45	67.55	44	・入荷量：13,554t ・主産地：千葉(49)、神奈川(41)		・千葉産は、適度な降雨と気温高により肥大化が進み過ぎたため、現在、下等級品の出荷調整により、平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は出荷調整が解除されることが見込まれ、平年並みの出荷の見込み。神奈川産は、最近の天候に恵まれ、特段の病害の発生もなく、生育は順調で、安定した出荷となっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・千葉産及び神奈川産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は平年に近づき、現在は平年を大幅に下回っていることから、引き続き平年を下回って推移する見込み。	
	76.48	55	44	76.48	50	・入荷量：3,845t ・主産地：和歌山(27)、長崎(25)、鹿児島(19)、徳島(16)			
にんじん	105.86	124	109	105.86	87	・入荷量：8,840t ・主産地：千葉(84)		・千葉産は、最近の適度な降雨と気温高により生育は順調で肥大が進み、太物傾向となっていることから、現在平年よりやや多めの出荷となっているが、今後は他作物の出荷と重なるため、現状より減少することが見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。 ・千葉産の出荷が平年よりやや多めから平年並みと見込まれることから、価格は平年に近づき、現在は平年を大幅に下回っていることから、引き続き平年を下回って推移する見込み。	
	104.49	126	110	104.49	98	・入荷量：2,626t ・主産地：長崎(66)、鳥取(12)、鹿児島(11)、宮崎(6)			

種類	11月の価格情報				12月の価格情報		入荷量及び主要産地	生育及び価格の12月の見通し
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格		(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格	上旬		
		中旬	下旬					
いも類	さといも	220.97	233	235	220.97	269	・入荷量：1,915t ・主産地：埼玉(56)、千葉(20)	
		(105%)	(106%)	(122%)	・入荷量：476t ・主産地：愛媛(40)、福井(23)、宮崎(14)、熊本(8)、大分(4)、輸入(4)、鹿児島(3)			
	217.56	305	298	217.56		306	(141%)	
ばれいしょ	96.99	90	88	96.99	88	・入荷量：8,368t ・主産地：北海道(82)		
	(93%)	(91%)	(91%)					
96.99	89	89	96.99	89	(92%)	・入荷量：3,267t ・主産地：北海道(83)、長崎(17)		

注：1 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
 2 旬別平均販売価格の赤字は平均価格を150%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
 3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
 4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5カ年平均の数値である。
 5 主産地は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年見込、近畿は前年実績。
 6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。
 7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価格を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。
 8 きゅうり、トマト、なすの11月の平均価格は、上段が上旬、下段は下旬の価格である。

種類	11月の価格情報				12月の価格情報		入荷量及び主要産地	生育及び価格の12月の見通し
	(参考) 過去5カ年平均価格	東京・大阪市場の旬別価格		(参考) 過去5カ年平均価格	東京・大阪市場の旬別価格	上旬		
		中旬	下旬					
洋菜類	ブロッコリー	282.01	257	182	313.68	241	・入荷量：2,386t ・主産地：埼玉(29)、愛知(24)、群馬(13)、香川(11)、千葉(3)	
		(91%)	(65%)	(77%)				
359.34	320	251	376.05	272	(72%)	・入荷量：599t ・主産地：徳島(30)、鳥取(16)、長崎(13)、香川(7)、和歌山(6)		
根菜類	ごぼう	210.20	272	285	255.27	319	・入荷量：1,603t ・主産地：青森(75)、茨城(12)、熊本(4)、北海道(3)	
		(129%)	(136%)	(125%)				
157.67	185	200	184.81	211	(114%)	・入荷量：1,079t ・主産地：茨城(33)、青森(29)、北海道(21)、千葉(5)、輸入(5)		

注：1 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
 2 旬別価格は、上段は東京中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
 3 旬別価格の赤字は、平均価格を150%以上回るもの、背景ありは平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
 4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5カ年平均の数値である。
 5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで前年実績である。
 6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。

2 野菜の需要動向

家計調査によると、10月の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、5,400g(前年比104%)、購入金額は、2,170円(同114%)となった。
 また、小売物価統計によると、11月のキャベツの小売価格は、210円(過去5カ年平均比128%)、トマトは689円(同94%)、だいこんは145円(同96%)、ばれいしょは315円(同101%)となり、トマト、だいこんで前年を下回ったものの、キャベツ、ばれいしょは引き続き前年を上回っている。

生鮮野菜の購入数量及び購入金額(1人当たりの購入数量と購入金額)

年	過去5カ年平均		平成26年		平成27年	
	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)
1月	4,272	1,640	4,379	1,775	4,374	1,755
2月	4,485	1,666	4,646	1,742	4,609	1,761
3月	4,868	1,811	4,958	1,878	4,921	1,939
4月	4,765	1,855	4,871	1,887	4,693	1,907
5月	5,089	1,917	5,146	1,993	4,968	1,988
6月	5,056	1,902	4,998	1,976	5,044	1,988
7月	4,402	1,737	4,542	1,770	4,353	1,966
8月	4,315	1,731	4,275	1,846	4,240	1,998
9月	4,688	1,844	4,745	2,035	4,836	2,143
10月	5,191	1,902	5,455	1,973	5,400	2,170
11月	4,990	1,700	5,291	1,704		
12月	5,146	1,927	5,233	1,977		

資料：総務省「家計調査報告(二人以上世帯(農漁家世帯を除く))」
 注：前年は、過去5カ年平均(平成22~26年)。

主要野菜の小売価格(東京都区部)

	キャベツ		トマト		だいこん		ばれいしょ	
	平成27年	前年比	平成27年	前年比	平成27年	前年比	平成27年	前年比
1月	229	108	663	99	154	102	313	99
2月	202	91	696	107	170	100	316	100
3月	169	82	766	109	157	91	324	102
4月	255	105	747	106	192	110	358	106
5月	273	168	702	114	212	138	409	114
6月	188	137	648	116	160	107	443	126
7月	167	104	608	105	188	116	474	144
8月	188	136	593	102	199	122	437	134
9月	226	143	748	109	204	110	343	106
10月	277	159	803	102	182	98	328	103
11月	210	128	689	94	145	96	315	101
12月								

資料：総務省「小売物価統計調査報告」
 注：1 前年は過去5カ年平均(平成22~26年)。
 2 平成27年11月の値は、11月中旬の速報値。

3 野菜の輸出入動向

貿易統計によると、10月の野菜の輸入量は、生鮮野菜が、6万4千トン(前年同月比98%)、加工野菜が14万1千トン(同103%)、野菜全体では、20万5千トン(同102%)となった。このうち、中国産野菜合計は12万トン(同101%)となった。
 生鮮野菜は前年をわずかに下回ったものの、加工野菜で、前年を上回ったことから、野菜全体では前年をわずかに上回った。
 また、輸出量は、生鮮野菜が、4,459トン(同530%)、加工野菜が、2,203トン(同121%)、野菜全体では6,662トン(同250%)となった。生鮮野菜及び加工野菜で前年を上回ったことから、野菜全体では前年を大幅に上回った。

野菜の輸入数量

区分	平成25年		平成26年		平成27年10月		平成27年1月~10月	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年同月比	前年同月比	前年同月比	
生鮮野菜	854,420	90	884,735	104	63,894	98	711,826	93
加工野菜	1,854,679	97	1,785,487	96	141,091	103	1,454,133	96
野菜合計	2,709,100	95	2,670,222	99	204,985	102	2,165,959	95
うち中国産野菜合計	1,416,557	97	1,409,604	100	120,123	101	1,123,132	96
中国産シェア	52		53		59		52	

主な生鮮野菜の輸入先(平成27年10月)

区分	合計	1位		2位		3位	
		国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ	23,453	中国	22,815	米国	638		
結球キャベツ	7,386	中国	7,276	韓国	110		
ねぎ	5,504	中国	5,504				

資料：農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料：財務省「貿易統計」)

野菜の輸出数量

区分	平成25年		平成26年		平成27年10月		平成27年1月~10月	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年同月比	前年同月比	前年同月比	
生鮮野菜	9,406	145	9,573	102	4,459	530	12,675	174
加工野菜	14,174	122	17,061	120	2,203	121	16,417	121
野菜合計	23,581	130	26,634	113	6,662	250	29,092	140

主な生鮮野菜の輸出先(平成27年10月)

区分	合計	1位		2位		3位	
		国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ	3,209	台湾	3,194	香港	10	マレーシア	4
ながいも等	646	米国	385	台湾	237	シンガポール	22
かぼちゃ	196	ベトナム	100	香港	84	シンガポール	6

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 戸田、河原、斎藤、海老沼 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
 ◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。
 ★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。
 ※無断転載禁止 ・ レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関しても、当機構は一切の責任を負いません。